

地上デジタル移動体向け（1セグメント）放送の不感地帯解消 のためのギャップフィラーに関する調査検討会 開 催 趣 旨

地上デジタル放送は2003年12月から関東、中京及び近畿の三大広域圏で家庭向けの放送が開始され、富山県においては、NHK富山放送局及び北日本放送が2004年10月1日から放送を開始し、同年12月1日には定格出力（1kW）となっている。また、携帯電話や携帯受信端末の移動体向け（1セグメント）放送については、早ければ2006年春頃に放送の開始が予定されている。

この地上デジタル移動体向け（1セグメント）放送は、6MHzの放送帯域を13セグメントに分割した1セグメントを使用して、携帯電話や携帯受信端末に組み込まれた小型の移動受信機へ放送するサービスであり、移動中でも安定したサービスの利用が可能となっている。また、移動体向けデータ放送とインターネットへの接続等の携帯電話の通信機能と組み合わせることにより、通信と放送を連携したサービスを行うことが可能であり、さらに、非常災害時等の緊急警報放送サービスなどへの活用も期待されている。

しかしながら、北陸地域は冬期の積雪等により、閉塞空間となっている駅ホームやバス停の待合室及び地下街等の利用が増えるが、これらの場所では受信が困難となることが想定されており、地上デジタル移動体向け（1セグメント）放送の普及促進を図るためには、これらの不感地帯解消が不可欠となっている。

このため、地上デジタル放送を開始している富山県のフィールドを利用し、不感地帯を解消するためのギャップフィラー（中継装置）に関し、その有効性及び技術基準の策定に資するための調査検討を行うこととする。

参考）地上テレビジョン放送のデジタル化のスケジュール

